

# 錦城高校新聞

題字 井口 文章  
再刊 第250号  
印刷・発行  
錦城高等学校新聞委員会  
編集室 2018

みんなでつくる  
錦城高校新聞

一面：いよいよ合唱祭当日！合唱祭準備特集  
インフルエンザ感染予防を心がけて  
二面：錦城生のスマホ利用を調査  
1年渡辺くん、リコーダー関東優勝

# 響け！心震わす歌声を

## 本日、いよいよ合唱祭

いよいよ本日は合唱祭本番。この日のために、各クラスで一丸となって練習をしてきたことだろう。編集部では、合唱祭実行委員長と全体合唱の指揮と伴奏者に本番への意気込みを聞いた。



始業式前に行われた全体合唱曲『COSMOS』の全体合唱。全体合唱は、当日の発声練習代わりとなる。精一杯歌おう。

### 「一番の発表になるよ」

今年はどうな合唱祭になるのだろうか。合唱祭実行委員長の福室友希さん(2F)に話を聞いた。

1月9日(火)の始業式の後には全体合唱練習が行われた。「本番前の声出しになるという意味では声があり出た感じが良かったかな」と、苦い顔で練習を振り返る。今年の全体合唱の曲は『COSMOS』

「今年の結果発表のとき、去年と違う方法で発表するので楽しみにしていてください」と福室さん。実行委員では1月の委員会などで、スムーズに結果発表ができるように何度も練習をしたという。

合唱祭を目前にして伝えたことを聞くと「1・2年合同での最後の行事なので、クラス一丸となって協力し合い、今まで一番の発表になるように成功させよう」と呼びかけた。



「去年と違う方法で、結果発表をします」と福室さん

だが、馴染みがない人も多いため、パートは気にしないで歌っていいそう。「本番は声も出ると思うので大きな声で歌えるように頑張ってください」と話す。

「みんな声は出ているが暗い感じがしたので、自分も指揮をしながら歌ったり大きめに指揮をしたりと、みんながも



全体合唱への思いを語る  
明山さんと小山さん



合唱祭に向けて、クラスでの練習に熱が入る

1月9日(火)に行われた始業式後の全体合唱について「みんな声は出ているが暗い感じがしたので、自分も指揮をしながら歌ったり大きめに指揮をしたりと、みんながも

楽しい全体合唱に  
合唱祭の全体合唱『COSMOS』の指揮をする小山奈緒さん(1E)と伴奏者の明山紅葉さん(1E)に取材をした。小山さんはYouTubeの動画を参考に、指揮の練習をしている。合唱中は一歩だけを見るのではなく、全員

の顔を見ようとしているそう。明山さんは指揮者を見てテンポをずらさないようにしながら、きれいな音を出すことを意識して演奏しているという。

幅広いジャンルの曲を演奏  
12月19日(火)吹奏楽部によるクリスマスコンサートがルネこだいらで開かれた。第一部はクラシックステージ。イギリス民謡や和風な曲など幅広いジャンルを演奏。華やかなファンファーレややかな低音のハーモニで観客をひきつけた。第二部ではクリスマスらしい楽しい賑やかな曲を披露。「すてきなホリデイ」ではかわい

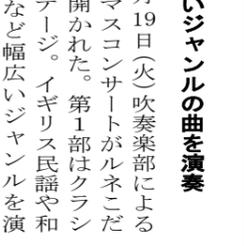
いサンタとトナカイが客席でダンスを披露し盛り上がる。また野球部によるコントやプレゼント抽選会が行われた。抽選会では当選した人に部員のサンタから素敵なクリスマスプレゼントが贈られた。

寸劇仕立てのコンサート  
12月20日(水)に、室内楽部のクリスマスコンサートがルネこだいらで行われた。第一部の幕開けは明るい曲調の「もろびとこぞりて」。「Under the sea」などの有名な曲から、ヒチカートや手拍子が特徴の「Plink, plink, plunk」などで観客を楽しませた。

第二部は、自信をなくして悩んでいるサンタクロースが勇者や生徒に出会って自信を取り戻すという寸劇仕立て。突然登場するスライムが会場内に笑いを起こした。「LAST CHRISTMAS」の演奏が始まると、室内楽部顧問で英語科の神谷先生が登場。弦楽器の美しいハーモニに合わせ英語の歌詞を流暢に歌い上げ、観客は聴き惚れていた。アンコールの「ジングルベル」には観客も手拍子で参加して会場が一体となり、心温まるクリスマスコンサートだった。

徒に出会って自信を取り戻すという寸劇仕立て。突然登場するスライムが会場内に笑いを起こした。「LAST CHRISTMAS」の演奏が始まると、室内楽部顧問で英語科の神谷先生が登場。弦楽器の美しいハーモニに合わせ英語の歌詞を流暢に歌い上げ、観客は聴き惚れていた。アンコールの「ジングルベル」には観客も手拍子で参加して会場が一体となり、心温まるクリスマスコンサートだった。

上段「クリスマス仕様で演奏する吹奏楽部のクリスマスコンサート」  
中段「室内楽部のクリスマスコンサート。優雅な音色で会場を魅了する」  
下段「軽音楽部のクリスマスライブ。サンタの帽子をかぶりノリの演奏で魅せる」



## 「ホストファミリーは第2の家族」

12月21日(木)から1月4日(木)まで、カリフォルニア州ロサンゼルス郊外でアメリカホームステイ・プログラムが行われた。

参加した日比野朔さん(1B)、野原有寿彩さん(1B)、段城百花さん(1G)、千田雪月さん(1E)、宮本暁くん(1G)、菊地航世くん(1G)に話を聞くと、アメリカでのホームステイは楽しかったと6人は口々に話してくれた。

アメリカで過ごした思い出  
アメリカでの食生活について聞くと、段城さんはジャムとピーナッツバターが挟まっているサンドイッチがとても甘かったと笑う。宮本くんは食事の際には毎回コーラが出てきた、と苦笑い。

アメリカで学んだこと  
今後に向けて菊地くんは「英語は重要だと思ったので、これからは真面目に勉強したい」といけなさと話した。「大

「ホストファミリーは第2の家族！また行きたいな」と千田さんが言うと、他の5人からも「また行きたい」という声が上がった。(碧)



ホストファミリーとのクリスマスを楽しむ

実際に感じた意志の強さ  
千田さんは今回のプログラムを通じて「自分の意志を持つ大切さを感じた」と振り返る。日本では言いにくいことが、無言で伝えることがあるが、アメリカでは言わないと伝わらない。日比野さんは「向こう

ターウォーズ」をアメリカで観たという宮本くん。ホームステイ先で出かけた場所についての話題になると、日比野さんは「ディズニーに行った話をしてくれた。元々日比野さんはスターウォーズが好きで、ホストファミリーからプレゼントでスターウォーズのグッズを買ったが、ディズニーに行った時にはさらにライントレーパーを買ったそう。

「英語は重要だと思ったので、これからは真面目に勉強したい」といけなさと話した。「大

「ホストファミリーは第2の家族！また行きたいな」と千田さんが言うと、他の5人からも「また行きたい」という声が上がった。(碧)



みんなで笑顔の記念撮影  
充実したホームステイとなった

## インフル、対策の鍵は「手洗い」

冬休みも明け、学校が始まってもう9日。15日時点で、錦城でインフルエンザになっている生徒は3人(保健室情報)。保健室の先生は「去年大流行したのに比べれば少ない。だけどこれからどうなっていくかはわからない」と話す。2年生の修学旅行について「普段より寒く、慣れない環境だから体の抵抗力が低下する。きつと体が疲れるので夜更かしせずに早く寝ること！」と呼びかけた。

インフルエンザ以外の感染症、たとえばノロウイルスでも手洗いうがいをすることで対策になる。外から戻ってきたときには必ず手洗い。朝登校した後も手洗いを心掛けよう。



みんなで徹底しよう！  
●教室の換気は一時間に一回  
休み時間に窓を開ける  
●手洗いうがい  
●睡眠をしっかりとる  
●栄養のある食事をする。  
この4つを心掛けて対策しよう

落とし物、心当たりありませんか？  
弁当、水筒、シス単、電子辞書など  
先生に言えば確認できます。

タイガーマスクやアントニオ猪木が現役として活動していた昭和後期の時代からプロレスは長い低迷期に陥り、過去の産物となってしまう。しかしここ数年、プロレスブームが再燃している。このプロレスブームを引っ張っているのが、新日本プロレスだ。プロレスブームの再燃は数字にも表れている。新日本プロレスが最も低迷した2011年度の売上は11.4億だったのに対し2015年度には32億に達し、その伸びは4年で3倍だ。これからは売上高も伸び続けると期待されている。▼プロレスがここまで伸びたのは「イメージの変化」が最も大きい。昭和の戦りや張り手中心だったものから最近ではアニメのような華麗な技が飛び出すようになり、小さな子どもたちの心を掴んだ。選手同士の抗争もドラマチックながら、グズも様々なものが揃っており、試合はテレビだけでなく動画での配信や独自の動画配信サービスの開設などにより、より多くの人の目に映るようになる。▼これらの改革を経て、プロレスは古い昭和のスタイルから現代的なものへ一気に生まれ変わった。その結果、多くの世代に受け入れられ人気が出た。しかし変わらないものもある。選手同士が闘志をぶつけ合い、カウントを取り、勝敗の行方に一喜一憂することは、ずっと変わらないプロレスの本質だ。▼先入観を捨て、一度でもプロレスを見てみてほしい。きつと、レスラーの熱い闘志に酔いしれるはずだ。(巴)

むらさき草  
2年前、友人に誘われ、初めてプロレスを見に行った。新日本プロレス主催の東京ドームで行われた興業だ。当時、コアな男性ファンの罵声が鳴り響き結局は試合結果が決まっていた。しかしここ数年、プロレスブームが再燃している。このプロレスブームを引っ張っているのが、新日本プロレスだ。プロレスブームの再燃は数字にも表れている。新日本プロレスが最も低迷した2011年度の売上は11.4億だったのに対し2015年度には32億に達し、その伸びは4年で3倍だ。これからは売上高も伸び続けると期待されている。▼プロレスがここまで伸びたのは「イメージの変化」が最も大きい。昭和の戦りや張り手中心だったものから最近ではアニメのような華麗な技が飛び出すようになり、小さな子どもたちの心を掴んだ。選手同士の抗争もドラマチックながら、グズも様々なものが揃っており、試合はテレビだけでなく動画での配信や独自の動画配信サービスの開設などにより、より多くの人の目に映るようになる。▼これらの改革を経て、プロレスは古い昭和のスタイルから現代的なものへ一気に生まれ変わった。その結果、多くの世代に受け入れられ人気が出た。しかし変わらないものもある。選手同士が闘志をぶつけ合い、カウントを取り、勝敗の行方に一喜一憂することは、ずっと変わらないプロレスの本質だ。▼先入観を捨て、一度でもプロレスを見てみてほしい。きつと、レスラーの熱い闘志に酔いしれるはずだ。(巴)

タイガーマスクやアントニオ猪木が現役として活動していた昭和後期の時代からプロレスは長い低迷期に陥り、過去の産物となってしまう。しかしここ数年、プロレスブームが再燃している。このプロレスブームを引っ張っているのが、新日本プロレスだ。プロレスブームの再燃は数字にも表れている。新日本プロレスが最も低迷した2011年度の売上は11.4億だったのに対し2015年度には32億に達し、その伸びは4年で3倍だ。これからは売上高も伸び続けると期待されている。▼プロレスがここまで伸びたのは「イメージの変化」が最も大きい。昭和の戦りや張り手中心だったものから最近ではアニメのような華麗な技が飛び出すようになり、小さな子どもたちの心を掴んだ。選手同士の抗争もドラマチックながら、グズも様々なものが揃っており、試合はテレビだけでなく動画での配信や独自の動画配信サービスの開設などにより、より多くの人の目に映るようになる。▼これらの改革を経て、プロレスは古い昭和のスタイルから現代的なものへ一気に生まれ変わった。その結果、多くの世代に受け入れられ人気が出た。しかし変わらないものもある。選手同士が闘志をぶつけ合い、カウントを取り、勝敗の行方に一喜一憂することは、ずっと変わらないプロレスの本質だ。▼先入観を捨て、一度でもプロレスを見てみてほしい。きつと、レスラーの熱い闘志に酔いしれるはずだ。(巴)